

経営学部創設30周年記念号刊行によせて

経営学部長 朴 大 栄

この度桃山学院大学経営学部は創設30周年を迎え、ここに『桃山学院大学経済経営論集』の記念号を刊行することとなりました。誠に喜ばしい限りであります。

本学部は、1973年（昭和48年）4月に、経済学部から独立して創設されました。その後、学生定員数の増大、カリキュラム改革、所属教員の充実等を経て、創設20周年にあたる1993年4月には学部を基礎とする大学院経営学研究科（修士課程）を開設、続いて1999年4月に大学院博士後期課程を設置するとともに、毎年継続して博士号取得者を輩出するなど着実な発展を遂げてきたのであります。

大学全体としまして、2001年4月に教員の大幅な組織替え、 Semester 制の導入をとまなうカリキュラムの大改革を実行し、教育環境の充実も図ってまいりました。本学部では、この機会を捉え、さらなる発展を目指して、4年間一貫した少人数教育の実施、高度専門職業人の輩出、英語教育改革、国際交流の促進を実行してきました。公認会計士第2次試験合格など高度職業人を旨とする学生の増大と合格者の輩出、TOEFL・TOEICに重点を置いた英語クラスの新設、英語による授業の設置等による世界各国の学生との交換留学の促進など、学部教育の改革・推進はまだその端緒についたに過ぎません。この流れは、学部将来構想委員会や研修教授会での議論を通じて、今後も継続させていかねばなりません。

学部教育の発展は、個々の教員の研究活動の充実をとまなわねばなりません。教育と研究は、学部運営の両輪であります。この意味で、経済経営学会の運営・編集による『桃山学院大学経済経営論集』が果たしてきた役割には多大なものがあります。経営学部の発展のみならず、本論集のさらなる充実・発展とともに期待するものであります。